

■e-黒板ニュース（第42号）：英国訪問報告（その2：吉村さんのロンドン印象記）

ロンドンに来ています。

Bett Show 2005の冒頭には、英国の教育大臣になったばかりというRuth Kelly氏のキーノート・スピーチがありました。とにかく「カッコいい」ので、写真を何枚も撮りました。” Education, education and education” といったあのブレア首相の演説もカッコよかったですと思いますが、ロンドンでお会いしたPromethean社のセールス・マネージャー Stephen Norris氏、そして、Avondale Park小学校のSue先生もとっても「カッコいい」のです。その「生き方」であったり、「言葉」や「立ち振る舞い」が。

ロンドンに来る前に「ハリー・ポッター」のDVDを見ました。付け焼刃の英語の勉強とロンドンを知るたです。Avondale Park小学校やSacred Heart High Schoolの規律正しい子どもたちは、その「ハリー・ポッター」のシーンを思い起こさせます。1960年代の英国の学校は、教室を走り回る子どもたちがいたりとか、とても大変な状況だったそうです。今は、国を挙げて教育に力を入れています。きっちり評価するシステムもできているようです。少なくとも私の見た授業は、子どもたちが生き生きとしていました。みんなが授業に集中し、共に学んでいました。

今回は、三菱総研の吉村さんに印象記をお願いしました。たくさんのキーマンと会え、たくさんの貴重な資料を入手し、そして何よりも実際に子どもたちの学ぶ姿を直接みることができた彼女の収穫も大きかったに違いありません。

速報で「何を感じたか」を伝えていただきます。 (関 幸一)

今号の目次：

=====
1. 速報：私のロンドン印象記（吉村春美）
=====

お友達への再配信またはご紹介は、ご自由にどうぞ。会員の皆様からの投稿もお待ちしております。

宛先はいつでも ekokuban@cec.or.jp です。

e-黒板研究会のホームページ

<http://www.cec.or.jp/e2a/ekokuban>

をご参照ください。e-黒板ニュースのバックナンバー等もご覧いただけます。

1. 速報：私のロンドン印象記（吉村春美）

こんにちは。三菱総研の吉村です。英国での調査も終盤に入りました。いろいろな方のご尽力で、学校の先生、校長先生、学校支援センターやボードメーカの方、BESA、BECTAなど政府関係者の方にお会いすることができました。

関さんと私は「なぜIWBを使うのですか？その有効性は？」という質問を投げかけ続けています。頂いた答えは有意義な示唆や情報ばかりで、私の脳は今にも溢れてしまいそうです。すべてをお伝えすることはできませんが、強く印象に残っている言葉とともに英国調査の様子をお伝えしたいと思います。

【IWBのない教室には戻れない】

複数の先生からこの言葉を聞きました。イギリスでは全公立小学校の34.7%が全教室にIWBを設置しています。また、Avondale Park小学校のSue先生はIWBを使うことができるという理由でAvondale Parkへの赴任を決めました。イギリスでは教員の異動の流動性が確保されています。そのため、ある学校では優秀な教員を確保するために、2年以上勤務した教員に専用のIWBを付与するという学校まであるそうです。イギリスでは、IWBが教員にとって魅力的な教具として、なくてはならない存在になっていることを強く感じました。

【教えたつもり、学んだつもり】

黒板を使ったこれまでの授業では、黒板に図形を書いたり、問題文を書いたりすることに教員も生徒も時間を使っていて、そこに真の学びはあるのか？という批判です。ノートを取るということも大切なスキルです。でもノートを取ることが学習目標でないことは明らかです。最近の研究では、IWBを使うことで教員の準備時間が大幅に削減されたという結果もでているそうです。削減された時間でより高度な内容を指導したり、創造的な活動をしたり、個別指導をしたりなど教員の創意工夫のある授業を実現できるのではないのでしょうか。

【「よい授業」を見るのが一番！】

どうすればIWBの有効性を証明/説得できるのか、そのために何をすればよいか、その解を見つけることが私たちの大きな課題でした。購入を決めた校長先生やボードメーカの方々の話では、「よい授業」を見るのが最も効果的だということなのです。確かにSue先生のテンポのよい楽しい授業、その授業を受ける子どもたちの真剣で楽しそうな笑顔をみれば、IWBを使った授業の大きな可能性が即座に理解できます。まず「よい授業」とは何かをきちんと定義し、それを共有しながら、「よい授業」の実践を普及させていくことが大切であるように思います。

eknews042.txt

以上雑駁ですが、印象記を終わります。BETTでは各教科におけるIWBの活用方法や実践事例のビデオクリップやIWBの有効性調査の研究結果などの資料を入手しました。帰国後また別の機会にご報告できればと思っています。

以上

=====
編集・発行：財団法人コンピュータ教育開発センター 関 幸一
e-黒板ニュース メールアドレス： ekokuban@cec.or.jp
e-黒板研究会 ホームページ： <http://www.cec.or.jp/e2a/ekokuban/>
=====